

関西学院大学社会学研究科における  
ソーシャルリサーチ教育の取り組み  
於 法政大学 2014.1.16

関西学院大学社会学研究科  
荻野昌弘

# 社会学研究科の離陸まで

- 1990年の時点で、博士課程在籍者は3名（日本人1名）
- ただし、この時点からしだいに大学院生数は増加→社会学のなかで新たな分野（環境社会学・数理社会学）が牽引する
- 関学社会学部の「伝統」＝実証主義が、この時期からしだいに学会内で広がる→「社会調査士制度」

# 制度の整備ー 20世紀COEプログラム／大学院GP採択から

- 「『人類の幸福に資する』社会調査の研究」によりCOE採択→継続のために先端社会研究所創設（2008年度）



- キャリアパスのモデル構築
- カリキュラム改革ー国際化への対応

# 大学院生のリクルート

- 優秀な学部学生の大学院進学を促すPR活動—入試説明会（毎年行なう）／PR用冊子の刊行←必ずしも大学院入学者に寄与しているとはいえない☞過去10年で大学院生が著しく増加しているわけではない
- 社会学部最優秀卒業論文賞—過去2年は、受賞者が大学院に進学→優秀な学生の動機付けには寄与している
- 社会学部であることの優位—開講科目で多様で、1年から社会学の授業を受けられる
- ベーツ特別奨学金制度（入学試験成績優秀者の学費相当額・年4名）

# 大学院入学から専任教員への流れ

- 大学院修士/博士課程—教学補佐、TA
- 大学院博士課程および大学院研究員—教学補佐、TAにあわせて、「基礎演習」（1年生の必修科目）などの担当／積極的に学術振興会研究員への応募を指導／「奨励研究員制度」（大学全体の制度）
- 研究科研究員（ポスドク）—任期制教員（2名）、先端社会研究所研究員として採用

# 教学補佐・TA制度

- 大学の制度で運用は学部には任されている
- 2014年度の新社会学部棟完成にあわせて「共同学習室」を作り、その運営を補佐する→学習会の運営補助／ソーシャルリサーチ相談等を行なう

# 任期制教員の就職状況

- 2009年度—2013年度—6名が採用され、全員が大学専任職に就職（信州大学、大阪経済大学2名、神戸学院大学、神戸市立外国語大学、関西大学）有効に機能

# カリキュラム改革（COE/GP）

- COEの際に、博士号取得者増加の必要から博士号取得プロセスのモデル化（大学レベルでは博士課程入学後6年以内に博士号取得）（資料参照）
- 「ソシオリテラシー」に基づくカリキュラム（資料参照）

# 大学院生サポートプログラム（Graduate Student Support Program） [GSSP]

- 「研究成果発表会」（教員一人がコメント）
- 国際化への対応—英語によるプレゼン能力の向上（先端社会研究所と連携）→オーストラリア国立大学のワークショップで英語による報告
- 『KG社会学批評』＝書評誌←任期制教員を中心に運営・書評論文は査読する
- 院生企画の研究会
- ランチミーティング（情報共有）
- 先端社会講義／研究IJ

# 先端社会研究所との連携

- 先端研「リサーチコンペ」（上限20万円の調査研究費・修士から応募可能）